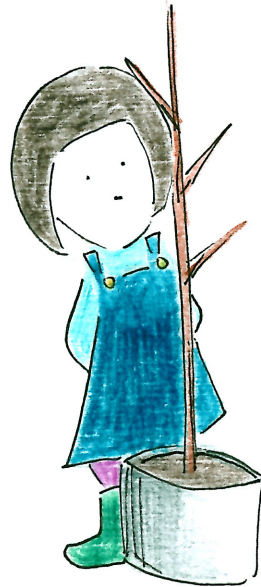


「時の蘇生」
柿の木プロジェクト

柿の木育て方マニュアル



はじめに

「時の蘇生」柿の木プロジェクト実行委員会から地元の子どもたち、みなさんに柿の木をプレゼントします。

この柿の木は、1945年に長崎で被爆した柿の木から海老沼先生が大切に育てた貴重な木です。
この柿は、「とんご」と呼ばれている長崎の地元品種ですが、被爆した親柿から生まれているので普通の柿とは違います。
種がとても薄く、しっかり根付くまでの幼少期はとても弱いので、子どもたちの他に、定期的に庭師など専門家の
世話も必要です。どうぞ、みなさんで大切に育ててください。

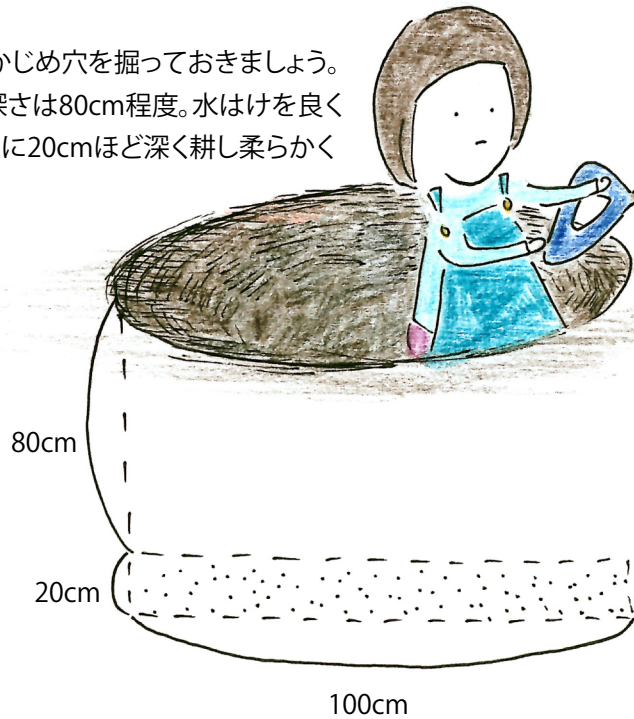
■ 植樹する場所の事前準備

- ・スコップ
- ・良質な天然堆肥(3年以上熟成したもの)
- ・用土:赤玉土(中粒)80%と良質な天然堆肥をよく混同したもの



用土は穴を埋め戻した時に20cmの小山が盛り上がるくらいの十分用量を用意しておいてください。

苗木を植える前にあらかじめ穴を掘っておきましょう。大きさは直径100cm、深さは80cm程度。水はけを良くするため、底の土をさらに20cmほど深く耕し柔らかくします。



水をまいて30分以内に吸収されるようにする。

①その上に良質堆肥を15~20cm入れます。

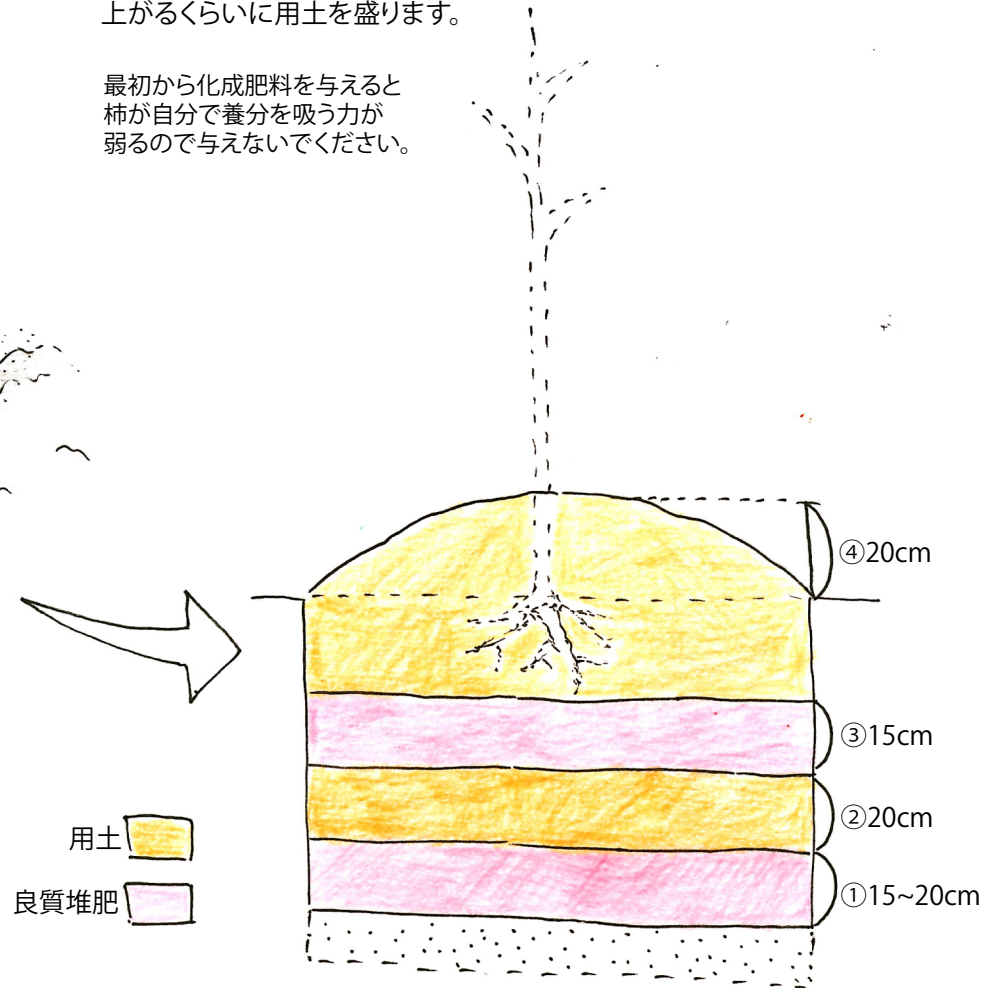
②その上に用土を20cm入れます。

③もう一度良質堆肥を15cm入れます。

堆肥が直接柿の根に触れることのないように深さは調節します。

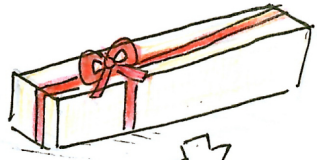
④最後は残りの用土で穴を埋めます。地面から20cmの小山が盛り上がるくらいに用土を盛ります。

最初から化成肥料を与えると柿が自分で養分を吸う力が弱るので与えないでください。

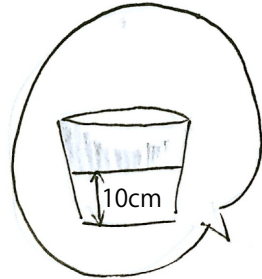
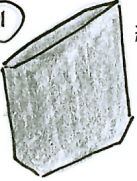


「時の蘇生」柿の木プロジェクト
柿の木育て方マニュアル

■苗木とポットが届いたら



① 繊維ポット



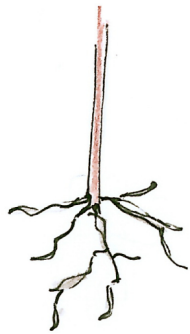
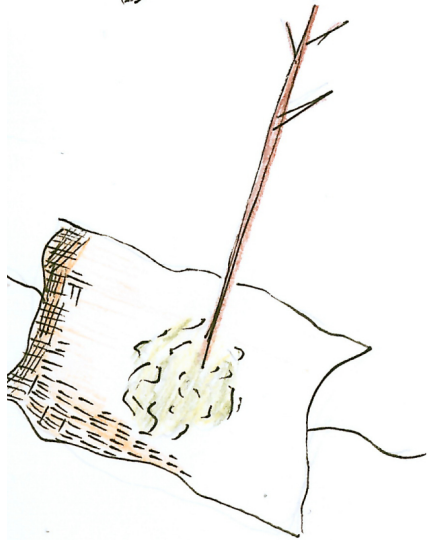
ポットに用土を10cmほど
入れます。



用土をポットのへりから2cmくらいまでいれ、



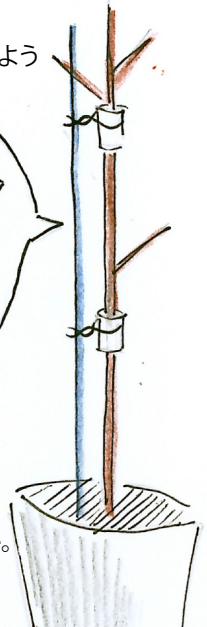
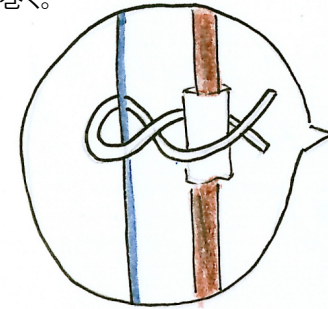
苗木を固定します。



根っこに巻かれている
水ゴケを取ります。

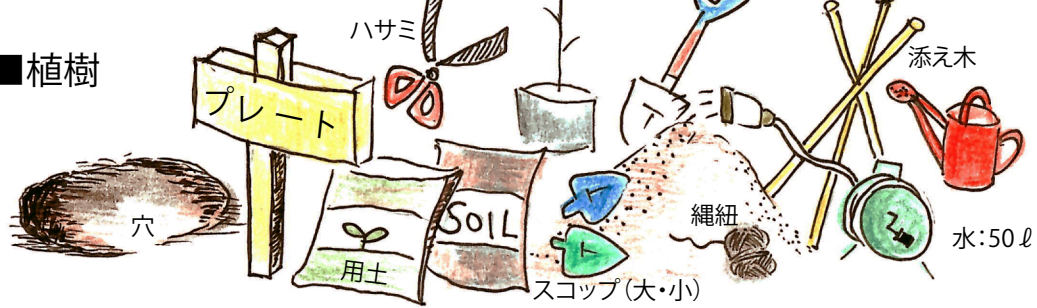


固定が必要な場合は、苗木を傷つけないよう
クッション材を巻く。

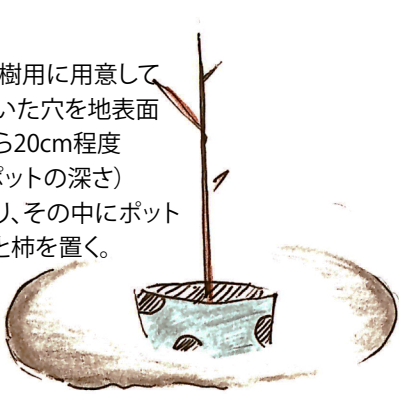


植樹式の日まで繊維ポットに入れておいてください。
根っこが凍ってしまうおそれのある場合は室内に
置いてあげると良いでしょう。

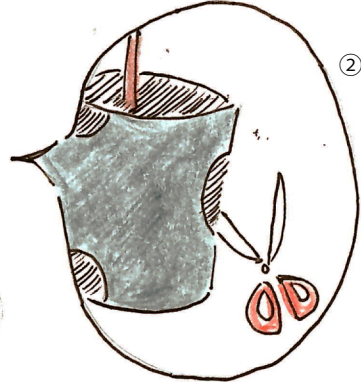
■ 植樹



① 植樹用に用意しておいた穴を地表面から20cm程度(ポットの深さ)掘り、その中にポットごと柿を置く。



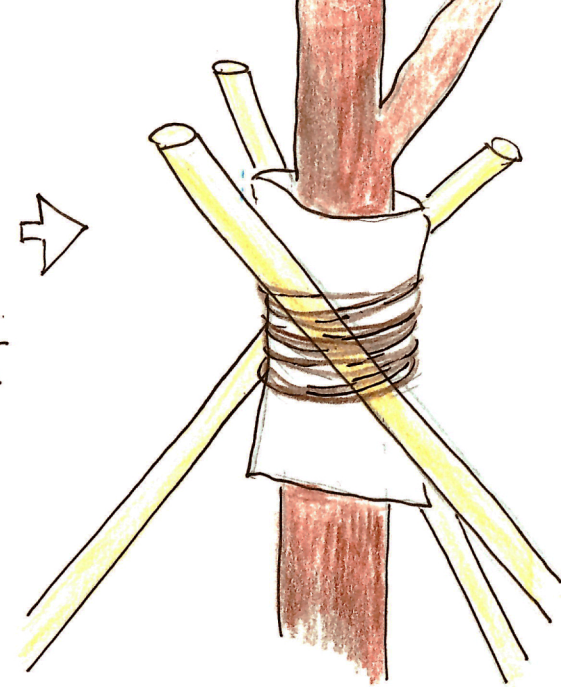
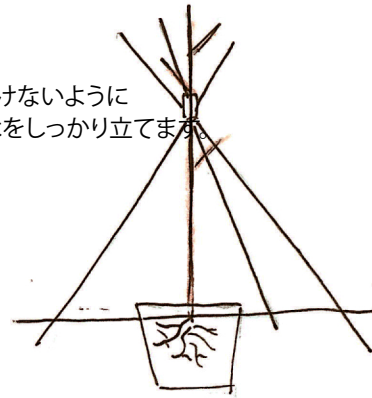
② ポットに10cmほどの大きさの穴を開ける。(5個~6個)



③ 用土をかけていきます。



④ 柿の根を傷つけないように注意して添え木をしっかり立てます。



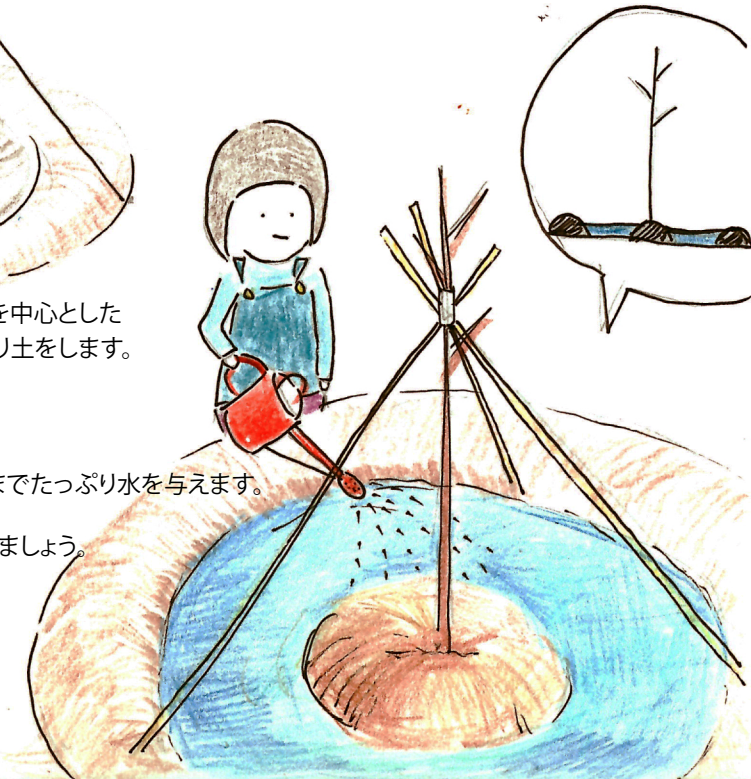
⑤ 添え木を固定するためにクッション材をあてて、緩めに結びます。



⑥ 水が逃げないように、木を中心とした直径1mの円形に周囲に盛り土をします。

⑦ 木の周りに水がひかなくなるまでたっぷり水を与えます。

⑧ 最後にプレートを立てましょう。





芽が出ない原因

1. 苗木の状態がよくない

長崎で被爆した柿の木(親の木)は、原爆によってかなりダメージを受けているので、もともとの生命力が弱い。

実際に親の柿木から採取する柿の種はとても扁平な形をしていて、あまり栄養分を含んでいない。

よって、発芽率も一般の柿の木と比較してとても悪い。また、生命力が弱いために、発芽しても根の状態がよくないことが多い。

苗木が小さくても、根の状態が良いものは植樹後に芽が出る可能性が大きい。

2. 寒さ対策が十分でない

日本では福島県くらいの気候が限界である。あまり寒いところでは芽が出ない。また、植樹した初年に土が凍ると柿の木へのダメージも大きい。

3. 植樹の時期が遅すぎる

被爆2世の柿の苗木は、温暖な長崎で育っているため、寒い地域などより春を感知するのが早い。苗木の植樹は、春になって芽が出る前、すなわち春に

なって木が目覚める前に終了してしまわなければならない。2月末までに終了することが望ましい。一度芽が出てしまった状態で、寒い気候の土地に植樹すると、

柿の木に対するダメージはとても大きい。

4. 栄養分(ガーデナーへ)

腐葉土を使用する場合には、その腐葉土の状態には十分注意する。与えすぎは良くない。未熟な有機質の肥料は、多く与えすぎると、二酸化炭素ガスが大量に出て、かえって根が弱ることがある。

根に必要なのは、二酸化炭素ではなく、適度な酸素である。具体的には、葉や枝の原型が残っているものは多く使用しない。それらが腐りきって黒く泥のようにになっているもの(3年~5年もの)がベスト。

日本では、市場に出回っている約90%以上のものが、未熟なものであるから特に注意する。ただし、苗木が元気な場合には、特に神経質になる必要はない。

芽が出ない場合の対処法

芽が出ない場合には、次のように苗木の様子を確認する。

1. 10倍くらいのルーペを用いて、幹が干からびているかどうか(縦ジワがあるかどうか)を観察する。

2. 苗木の上の方から見ていき、上の方にだけシワがある場合には、まだ大丈夫であるが、根元近くの下の方まで縦ジワがある場合には、枯れている可能性が大きい。

3. 観察して枯れたと思われても次の年の春まで待つ。

4. この場合、冬には土が凍らない様に細心の注意を払う。特に気温が0℃以下になる場合は、土が凍るので注意する。具体的には、ワラを根元に5cmくらい敷き詰めて、土を保温する。

また、ワラが入手困難な場合には、キリのようなものでたくさんの小さな穴をあけたダンボールを2枚に重ねて根元に敷き、根元を保護しても良い。

わからない時、木の様子がおかしい時は、プロジェクト実行委員会までご連絡ください。

2015年4月

「時の蘇生」柿の木プロジェクト実行委員会

〒302 - 0123 茨城県守谷市乙子13-2 tel/fax: 0297-20-6543

email: revivetime1995@kakitreeproject.com web: <https://kakitreeproject.com/>